

【コーディネーター（久世）】今、岐阜の方からいわゆる芸能と、それから文化財という視点でお話をいただいたと思います。今回のテーマである「白山文化はいいもんだ」の、文化的なところを見ていくと、なかなかいいところがあるじゃないかと私どもは思うようになります。白山文化には美濃だけではなくて、加賀、それから越前という3つの馬場がございます。これから「加賀馬場と文化の再発見」というテーマで小阪様にお話を賜りたいと思います。よろしくお願ひいたします。

パネリスト

「加賀馬場と文化の再発見」

小阪 大氏(白山市教育委員会文化財保護課)



白山市という市は、今年の12月でちょうど15周年を迎えました。1市2町5村が合併して、白山市と加賀はなりました。白山の山頂から日本海まで手取川という川で結ばれております。

右の写真は市役所から見る白山です。昨年ちょうど白山が開山して1,300年だったので、右端のようなロゴもつくりましたし、今、白山手取川ジオパークということを市で取り組んでおりまして、ロゴの上に飛んでいるのはゆきママという白山の雪の精というゆるキャラです。

では、加賀のほうの説明をさせてもらいます。

白山市の文化財というのは、パワーポイントの数字が、合計が394件となっていますが、2件増えまして396です。訂正ください。合併して非常に多くの文化財を抱えております。

今日は3つぐらい事例を説明しようかと思ひます。この中で古くから白山麓に伝わっている、尾口のでくまわしというものを説明させてもらいたひと思ひます。

デジタルアーカイブは、いかに課題を克服するかというのもテーマでありますので、あえて課題を持ってきました。



白山市の文化財	
★指定文化財件数	
国指定	24件
(うち国宝1件「剣 銘 吉光」伝統的建造物群指定 1件)	
・県指定	28件
・市指定	344件
・国登録有形文化財件数	32件
合計	394件
伝統的建造物群指定	1件



国蔵 吉光(白山比咩神社蔵)

深淵でまわれ公演

資料日：2016/12/25

本公演（左）の衣装

※国指定重要無形民俗文化財

旧国三河村深淵地区に、およそ350年前から伝えられてきた「まわれ」

祭りの骨組みには刀剣を抜き、旗をつけ、衣装をつけただけの高身長な人形が主役。本末の寺で囃し定獅子に合わせて動きます。で、人形が一体とした祭典は稀である。

観劇日

2019年2月17日（日）

観劇時間

13:00～15:00

観劇場所

深淵でまわれ・保存会館

〒410-0201 静岡県浜松市東区

演目はこういうふうにして、人形浄瑠璃は2人遣いとか3人遣いがあるのですが、逆でして、口や手は動きません。でくの坊みたいです。それででくまわしというふうに言います。古い古浄瑠璃です。佐渡にも同じようなものがあったり、薩摩川内にもこういうものがあったりします。

古くから白山麓で行われていたものなのですが、1人でなんと3人遣いまでします。上の写真は、弁慶の千人斬りの話だったと思いますが、演目は下の写真のように忠臣蔵や源氏鳥帽子折、酒吞童子とかをやっております。公民館の会場で今公演していますが、満員の150人になります。非常に貴重な文化財だということで、記録を残したいと学校とかでも教えているのですが、継承が危機的な状況になっています。

事例2

白峰伝統的建造物群保存地区と伝統芸能

白山ろくろの中心的集落で戸数は約300軒。江戸時代から養蚕が盛んで現在でも「牛首袖」が特産物で生産されている。
一般家屋は、「大壁造り」と呼ばれる独自のスタイル。
1階は生活スペースであるが、2階・3階は養蚕のスペース
この様な家屋が大部分を占め、平成24年に国の伝統的建造物群保存地区となった。

白山が開山されたとされる7月18日は、町の広場で「白山まつり」が行われ芸能行事が催される

石川県一の豪雪地帯で積雪は多いときは2m以上になる。
2月には、「雪だるままつり」が催される



東二口文弥人形浄瑠璃・でくの舞

旧尾口村東二口に残る伝統芸能
白山ろくろの山間集落に伝わる伝統芸能。
集落は現在10軒しかない。
伝承者の中に20代の青年がいるが、親が当地の出身で、居住地は金沢の都市圏。
居住者が、近年で急激に減少。限界集落化しつつある。

伝承者13名（平均年齢54歳）



もう一つが、深瀬のほかに白山麓にとどまっている東二口のでくまわし、でくの舞というものです。ここは割かしまだ、伝承者13名、平均年齢54歳ということで続いています。

同じく1人の人が2人遣いとか3人遣いをしますが、ここのでくまわしは三味線が入って、深瀬のものは三味線が入らないというふうに少し違いがあります。演目はほぼ同じことをやっています。

上の写真のように満員になります。ここのでくまわしは、江戸時代に大阪の近松門左衛門のところで修行をして教わったという伝承があります。

ここの集落がもう10軒ぐらいになりました。こかも若い世代はみんな金沢とかに住まわれています。ここの文化を残さなければいけないのですが、雪が2メートルぐらいになるので、家屋の半分ぐらいが無人です。毎年毎年この家屋を壊さなくてはいけないということで、何か保存できるものはないかと相談があります。特に白壁のところは漆喰があつて残したいのですが、なかなか残せないというのが現状です。



東二口集落



左の写真もこの間開かれていた祭りのチラシです。文弥まつりと言います。先ほど曾我先生のお話の中で、事例名の2は白峰のかんこ踊りを説明されたかと思います。ここは白山麓の本当に麓ですが、大きな集落で家が300軒ぐらいありまして、平成24年度に国の伝統的建造物群指定を受けました。非常に特徴ある家屋が多いところで、大壁造りと言いまして3階建ての家があります。これは2階、3階で蚕さんを飼って

いたのでこういう構造になっています。



白山麓十八ヶ村取次元 旧山澤十郎右衛門家

冬になるとやはり下のような風景になります。ここの集落というのは、雪おろしが名物です。これも文化の一つかと思います。こういう狭い密集地帯にて、屋根雪おろしをしている風景です。



先ほど曾我先生が説明されたかんこ踊りです。ももとは、高地と言われた市ノ瀬というところにあったものです。福井県の大野市に同じものがあります。三重県の白山町、今は津市になっていますが、そこにもかんこ踊りがあります。この辺を今後どういう関係なのか調べていきたいと思います。町の中でこういうふうに踊られている風景です。



この地区は雪が多いということで、上手くこれを生かしています。2月の上旬に氷点下5度になるのですが、雪だるままつりにはたくさんの人が来ます。そこで鍋とかを振る舞って、雪だるまを各家々で作ってもらって、観光の人を呼び込んでいます。

事例3、白山文化ということですので、昨年行った霊峰白山の文化の取り組みを紹介したいと思います。



事例3

霊峰白山と白山文化の再発見
白山開山1300年
白山は身近にあるけど...
・白山下山仏バスツアー
・白山下山仏の展示
・新たな文化財の発見

白山の山の上というのは元々、曾我先生がお話されたように明治7年まで山の上に仏像がありました。こういう仏像のバスツアーとか下山仏の展示を行いました。実は先ほど文化財394と書きましたように、2件、開山1,300年で増えました。それは後で紹介いたします。

これは三馬場の禪定道です。3つの馬場から上がるルートがあります。山の上の航空写真

です。山頂はこういうふうになっています。

山の上には昔の遺跡がたくさん残っています。禪定道の遺跡。ここには元々仏堂があって仏像が安置されていました。

山頂に何か石の室があります。こういったものが遺跡です。航空写真で見ると池があって、ここに平安時代から使われている室の跡があります。室の中にお堂があったので室堂と言います。仏像を安置していました。



こういったところには仏像があったのですが、こういった仏像は、明治7年に大々的におろされて、下山仏という言葉になっていきました。御前峰、越前の禅定道にあったものとかは、廃仏毀釈といった時代の流れによって、白山市の白峰のほうにおいてしまいました。加賀の禅定道にあったものは、尾添というところにおりました。美濃禅定道の仏像は、先ほど虚空蔵さんが載っていましたが、石徹白の大師堂に収められております。

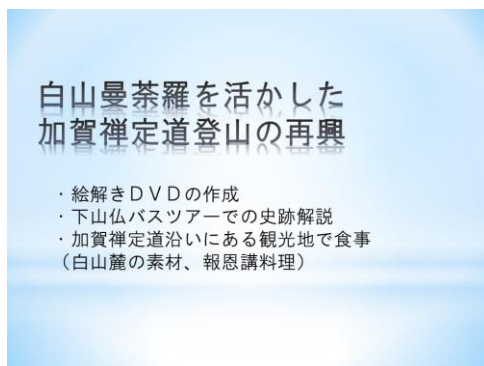
山頂にあった仏像には、こういうような仏像があります。



実は去年、下山物を見るバスツアーを5回ぐらい開催したら満員になってしまいました。金沢駅発着で、1日白峰とか尾口地方へ行行って日帰りだったのですが、半分は関東の都市圏の方がおいでになられて驚きました。インターネットとかで募集して、観光協会が行ったのですが、募集と同時に満員になりました。2回追加で開催しましたが、それも満員になりました。白山信仰の文化を歩いてみようということで、バス会社と地元のガイドさんが組んで、新たな観光資源、文化財を生かしたことを行いました。

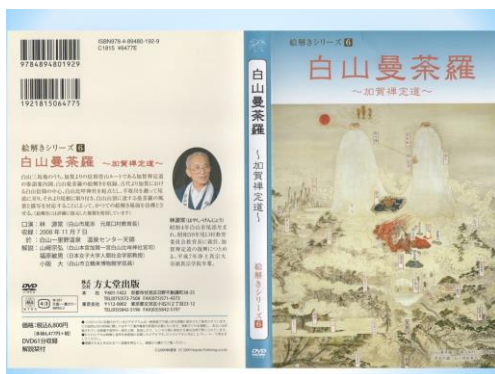


博物館でもこういう展示をやりました。たくさんの人がおいでになりました。



最後に発見ということで白山曼荼羅というもので、加賀禅定道を描いたものがあります。これは、中に絵解き文というものがついておりまして、この絵解き文に沿って、絵解きが江戸時代にされています。江戸時代の地域を発信するツールだと思いますが、禅定道の、先ほど書かれた史跡とか伝承をまとめています。

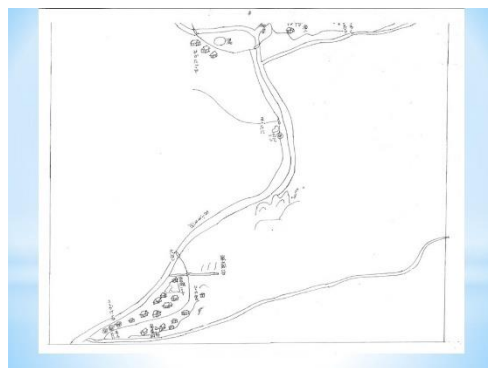
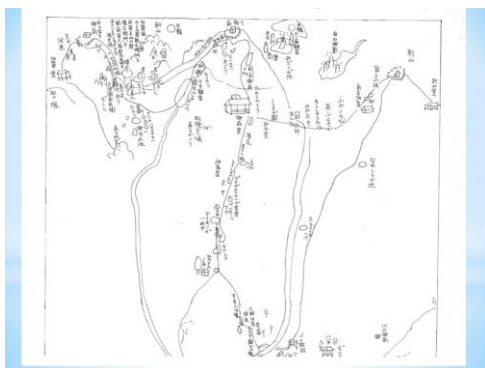
こういったものも以前にDVDとして、地元の方に絵解きをしていただいて1時間の絵解きとして残しました。



新たな文化財の発見 (林西寺本白山曼荼羅)



昨年2件増えたものですが、何と開山1,300年記念の1年前にこの林西寺から参詣図、曼荼羅が見つかりました。これを修理しまして、昨年5月から公開をしました。これも全部、細部が書いてありますが、白峰の風嵐というところから市ノ瀬を通して越前禅定道へ行く、新たなルートがきちんと書かれています。



この曼荼羅も非常に多く発見がありまして、例えば山の中でいぶされている女性です。名前までちゃんと載っているのですが、そういった伝説があります。白山の山の上は元々噴火していたので、地獄めぐりと言われていたのですが、女人禁制の山だったので、こうして曼荼羅に書いてあるということです。



また、温泉地です。少しわかりにくいのですが、湯と書いてあります。白山温泉が江戸時代に確かに存在して、もしかしたら大雅や谷文晁がここでお湯につかったのかなと思います。そういったことが書かれています。

曼荼羅というのは絵解きと、山の仏教の世界を書いてあります。登場する泰澄大師についてですが、実は泰澄に2人の弟子がいて、白峰では地元の人になっています。これも何か絵解き文があったのかなと思います。こういったことが書かれています。

最後はこの風嵐の集落、今はもうなくなっていますけど、きちんと13軒の家が書かれています。先ほど曾我先生の中にあった岩根社——岩本社です——の姿も書かれています。

そしてもう一つは、加賀曼荼羅の下図と思われる曼荼羅が以前から見つかっています。これが28年に文化財指定を受けました。

まとめとして、白山麓は急激な過疎化が進んでおりまして、伝統芸能の継承の危機があります。白峰は意外と、伝統的建造物群の指定で、より白山麓の生活をするための活性化に一役買っているということです。独自の白山文化の発信として、新たな文化財発見と活用、曼荼羅の発見に取り組み、これを何とか観光資源へ活用して地域に生かしていきたいということでまとめさせていただきます。ありがとうございました。(拍手)



白山加賀禪定道図（平成28年市新指定）



まとめ

- ・白山ろくでは急激な過疎化
→伝統芸能継承の危機
- ・伝統的建造物群指定
白山ろくで生活するための
活性化に一躍
- ・独自の白山文化の発信
→新たな文化財発見と活用
→新たな観光資源へ